

平成19年度一般会計決算のすがた

確定版

(下線部が速報値から変更のあった数値)

決算の全体像

◇ 歳入は、4,537億円。(対前年度比 △105億円)

◇ 歳出は、4,504億円。(対前年度比 △106億円)

◇ 基金の取り崩しと、退職手当債等の発行により、黒字を確保。

[歳入 4,537億円 - 歳出 4,504億円 - 翌年度へ繰り越した事業に必要な財源 25億円 = 8億円]

歳入の状況

◇ 県税、地方交付税(その振替である臨時財政対策債を含む)等の主要な一般財源は、
⑱3,237億円から⑲3,175億円に減少(△62億円)。

歳出の状況

◇ 人件費は、⑱1,698億円から⑲1,692億円に減少(△6億円)。

◇ 補助費等は、社会保障関係経費の増により、
⑱862億円から⑲891億円に増加(+29億円)。

◇ 公共事業などの普通建設事業費は、
⑱858億円から⑲784億円に減少(△74億円)。

◇ 歳出の規模は7年連続の減。(⑫5,783億円 → ⑲4,504億円 △1,279億円、△22.1%)

収支不足への対応と基金、県債残高の状況

- ◇ 当初予算時の収支不足額は245億円。
- ◇ 決算時の収支不足額は154億円。(△91億円)
 - 歳入確保、歳出削減の取り組みにより、当初予算時より圧縮
- ◇ このため、基金(財政調整基金、県債管理基金)の取り崩し(86億円)と、退職手当債等の発行(76億円)により黒字を確保。
 - 対応後の収支は8億円の黒字。
- ◇ この結果、
 - ・ 基金残高は⑩年度末 441億円から⑪年度末 387億円に減少(△54億円)。
 - ・ 県債残高は⑩年度末9,783億円から⑪年度末9,828億円に増加(+45億円)。

財政状況の指標

- ◇ 一般会計のほか特別会計等の決算額を含め、財政状況の指標を算定。

※表中の〈 〉の数値は、法律により財政健全化計画等の策定が義務付けられる基準

- ◇ 資金繰りの状況を表す指標

指標の種類	本県数値	備考
公営企業等を除く会計の赤字の比率(実質赤字比率)	黒字のため「－」	〈3.75%〉
全ての会計の赤字の比率(連結実質赤字比率)	黒字のため「－」	〈8.75%〉
公債費の比重を示す比率(実質公債費比率)	12.3%	〈25%〉
公営企業の資金不足の比率(資金不足比率)		
水道用水供給事業、流域下水道事業	資金剰余のため「－」	〈20%〉
病院事業	5.0%	
中央卸売市場事業	0.7%	

- ◇ 負債の状況を表す指標

指標の種類	本県数値	備考
県債残高だけでなく公営企業会計や公社・3セクの負担も含めた、一般会計が将来負担すべき負債の比率(将来負担比率)	<u>247.1%</u>	〈400%〉

- ◇ 本県の指標は、いずれも基準に該当する状況には至っていないが、基金残高の減少、県債残高の増加という状況を踏まえ、これまで以上の歳入確保、歳出削減にむけた取り組みが必要。